






採取容器の種類

	<p>50cc滅菌タッパ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰は、唾液の混入を最小限にして下さい。 ・カテーテルなどは乾燥を防ぐ為、少量の滅菌生理食塩水を入れて下さい。 ・ガーゼは、必要な部分を切り取り容器に入れて下さい。 ・乾燥を防ぐ為、蓋は完全に閉じて密閉させて下さい。 ・液状検体は漏れる為、使用しないで下さい。 ・抗酸菌の便培養、ロタウイルス抗原、クロストリジウム抗原、固形検体など。
	<p>シードスワブ1号（一般菌便培養専用容器）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糞便を専用綿棒で採取し、容器に入れて下さい。 ・自然排便が困難な場合、綿棒を肛門に挿入して採便して下さい。 ・検体採取には、患者様への説明と協力が必要です。 ・依頼時に特記事項（海外渡航歴や渡航先、飲食物など）を明記すること。
	<p>シードスワブ2号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シードスワブ3号より細い綿棒で、鼻腔、眼、尿道などに使用します。 ・付属の綿棒以外は入れないで下さい。 ・綿棒を入れる黒い部分は、保存培地になっています。
	<p>シードスワブ3号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咽頭などの口腔内は、うがいを行ない常在菌の混入を最小限にして下さい。 ・付属の綿棒以外は入れないで下さい。 ・綿棒を入れる黒い部分は、保存培地になっています。
	<p>滅菌中試験官</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿、胆汁、腹水などの液状検体に使用します。 ・漏れないようにしっかりとふたを閉めて下さい。 ・短いカテ先、小さい検体は、滅菌タッパで採取して下さい。
	<p>ケンキポーター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓶内には、炭酸ガスが充填されており、嫌気状態になっています。 ・瓶底の寒天には指示薬が添加され、嫌気状態で無色、酸素が混入するとピンク色に発色する。 ・1検体で好気性菌の培養も可能です。 ・ケンキポーターを必要な方は、微生物検査室に取りに来て下さい。
	<p>血液培養ボトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左から、嫌気ボトル・好気ボトル・小児用好気ボトル ・骨髓液も検査可能です。 ・検体ラベルは、ボトルのバーコードにかからないように貼って下さい。 ・採血料は、3～10ml（小児用は1～3ml）です。 ・採血量が多いと、偽陽性やボトル内で凝固することがあります。 ・採血量が少ないと、偽陰性や検出の時間が延長します。 ・採血時期は、熱の上がり始めて抗菌剤投与前が原則です。

	<p>喀痰処理器 ・抗酸菌培養の喀痰採取容器</p>
	<p>血液、骨髄液の抗酸菌培養容器 ・容器には、滅菌蒸留水が入っているので、血液、骨髄液を1ml入れ、数回転倒混和を行なって下さい。</p>
	<p>A群溶連菌検査容器 ・A群溶連菌の抗原検査専用容器で、一般菌同様、咽頭、扁桃から採取します。</p>
	<p>淋菌、クラミジアDNA検査専用容器(女性用) ・女性子宮頸部専用。 ・1検体で淋菌とクラミジアのDNAの検査が可能です。 ・綿棒は2本あり、1本で頸管の粘液を取り除き、もう1本で検体を採取します。 ・粘液が多いとDNAが十分に抽出できず、検査結果が偽陰性や弱陽性になります。</p>
	<p>淋菌、クラミジアDNA検査専用容器(男性用) ・男性の尿道採取専用。 ・1検体で淋菌とクラミジアのDNAの検査が可能です。</p>